

公益財団法人 放送文化基金  
2025年度 事業計画  
(自 2025年4月1日 ~ 至 2026年3月31日)

2025年度は基幹事業である「1助成、2表彰、3支援活動」に加え、新たな事業展開に資する事業企画を検討する。

1 助成事業 予算額 7,983万円（積立金の取崩額2,000万円を含む）

「人文社会・文化部門」、「イベント事業部門」、「技術開発」の3部門を柱に助成事業を展開する。助成金の規模は前年と同額の総額7,000万円(うち2,000万円は助成費用準備資金の取崩しによる)で放送の周辺領域を含む、より広い分野での放送技術に関する研究・開発、ならびに人文・社会科学的な調査・研究、およびイベント事業への助成を実施する。

助成応募件数の増加を図るため、学術誌に広告を掲載するなど、助成事業の周知・宣伝活動を強化するとともに、事務効率化の観点からペーパーレスシステムの導入を行う。助成対象を決定した際は、対象者とテーマを記者発表し、ホームページ(英語表記を含む)で公表する。

3月の「助成金贈呈式」では、近年助成したプロジェクトの中から、視聴者の関心の高いテーマや時宜を得たテーマをとりあげ、成果報告会を行う。

2 表彰事業 予算額 5,152万円

視聴者に感銘を与え、放送文化の発展と向上に寄与した優れた番組・配信コンテンツ、放送文化および放送技術に関する著しい貢献に対し、表彰を行う。

(1)放送文化基金賞

全国の民放、NHK、番組制作会社に加え、動画配信会社も対象として、広く応募を募り、表彰する。

「放送文化基金賞」の決定については、その受賞作品、受賞者、選考理由等を記者発表し、ホームページ(英語表記を含む)で公表する。

○前年度に放送・配信されたドキュメンタリー部門、ドラマ部門、エンターテインメント部門、ラジオ部門の4分野の番組・コンテンツを対象とする。

番組・配信コンテンツの表彰(最優秀賞,優秀賞,奨励賞) 計 16 本以内  
個人への賞(演技賞,企画賞,演出賞等) 計 6 件以内

○個人・グループ 部門

次の2分野で主に前年度に顕著な業績を挙げた個人またはグループを対象とする。

放送文化・・・放送界に新生面を拓くなど放送文化の発展・向上に貢献した個人またはグループ 4 件以内

放送技術・・・技術の開発や放送現場での工夫・考案で効果を挙げた個人またはグループ 4 件以内

○特別賞

放送の将来を見据え、放送の新たな可能性を切り拓くような番組や取り組みを対象に、今年度より新たに新設する。

(2)他の賞への参加

国際コンクールである「ABU賞」(主催 アジア太平洋放送連合)および「創作テレビ・ラジオドラマ大賞」(主催 日本放送作家協会・NHK)へ参加し、優れた番組や企画、脚本にそれぞれ賞金を贈呈する。

◎ABU賞・・・優れた番組の表彰(ABU賞全体へのスポンサーとして)

◎創作テレビ・ラジオドラマ大賞・・・優れた創作脚本の表彰

3 支援活動事業 (制作者フォーラム) 予算額 1,176 万円

放送に携わる若手制作者の人材育成を支援する施策として、地域の制作者が組織の枠を越えて交流を図る制作者フォーラムを各地区で開催する。

今年度は北日本(福島)、愛知・岐阜・三重(名古屋)、九州・沖縄(福岡)の3地区での開催を見込んでいる。また、東京で全国制作者フォーラムを開催する。

4 新規事業企画 予算額 300 万円

メディア状況の変化を見据え、時代を見据えた独自事業をメディア学会とも連携しながら開発、展開する。

(1)放送開始100年、SNS 時代の放送の役割を再検証するシンポジウム

(2)コンテンツの海外展開戦略検討ワークショップ

(3)交流イベント「番組を見る会」の企画・開催